

～戦争の実相と次世代への継承～

# 連合 戦後・被爆80年 シンポジウム

日時

10/6<sup>月</sup> 16:30 ▶ 18:30

開催場所

全電通労働会館「多目的ホール」

プログラム

- 16:30～17:00 オープニング（100万人のクラシックライブによる被爆ピアノ演奏）
- 17:10～17:15 主催者代表挨拶 日本労働組合総連合会 会長 芳野友子
- 17:15～18:25 パネルトーク
- 18:25～18:30 閉会挨拶 日本労働組合総連合会 事務局長 清水秀行

パネリスト



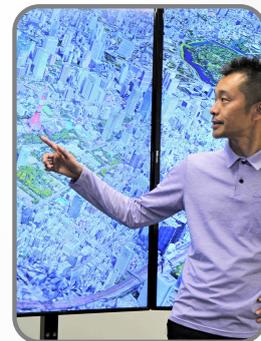
・濱住 治郎  
日本原水爆被害者団体協議会  
事務局長

広島で母親の胎内3か月で被爆。1946年2月生まれ、2003年稲城市原爆被爆者の会設立。2015年日本被団協事務局次長。NPT再検討会議や核兵器禁止条約の国際会議で発言。2024年のノーベル平和賞授賞式参加。2025年6月より日本被団協事務局長に就任。



・中村 涼香  
NPO法人ボーダレスファウンデーション  
理事

2000年長崎県生まれ。祖母が被爆者の被爆3世。被爆地の外でのアクションをさらに広げるために東京を拠点とした「KNOW NUKES TOKYO」を設立し、核兵器禁止条約を推進。企画展の開催や平和学習を通して、核兵器のない平和な世界を目指し2025年よりNPO法人ボーダレスファウンデーションに参画。



・渡邊 英徳  
東京大学 大学院情報学環  
教授

情報デザインとデジタルアーカイブが専門。「ヒロシマ・アーカイブ」などを制作。著書に「AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争」「戦中写真が伝える 動物たちがみた戦争」など。グッドデザイン賞、日本新聞協会賞など受賞多数。

連合がめざす「働くことを軸とする安心社会」の実現には、「社会が平和で安定していること」が大前提である。連合は、1989年の結成以来、「平和なくして、労働運動なし」の信念のもと、平和4行動を軸に、平和運動を展開している。戦後・被爆80年の節目を迎えるにあたり、戦争体験の語り部の方々が少なくなる中、本シンポジウムを通じて戦争の実相と平和への思いをどのように次の世代へ継承していくか、参加者それぞれの立場から考える一助とする。

ライブ配信



# オープニング演奏

## 株式会社矢川ピアノ工房

矢川 光則  
株式会社矢川ピアノ工房代表



1952年広島生まれ。大手ピアノメーカー勤務を経て1993年にヤガワ楽器調律センターを設立。1995年から古いピアノ再生の奉仕活動を始め、被爆ピアノと出会う。2001年より平和記念公園でコンサートを開催し、現在は全国で「被爆ピアノ平和コンサート」を続けている。



## 被爆ピアノ

原爆投下時1945年8月6日広島、8月9日長崎で爆心地より約3km以内で原爆の爆風、熱線、放射能等の被害を受けたピアノの事を指す。



## 100万人のクラシックライブ

100万人のクラシックライブは日常に音楽があふれる街（社会）を目指して、身近で聴く生の演奏を通じて人と人が繋がる場が広がるよう日本全国で活動中。近年では内閣府、自治体など公の機関と連携し、孤独孤立対策、子どもたちの心のケア・体験格差の是正にもライブが活用されている。

ピアノ  
熊井麗音  
(くまい れいね)

東京都生まれ。幼少よりピアノを学び、桐朋学園大学卒。オーケストラ共演やテレビ収録、被災地支援「Rusing Sun」に参加し、スクールコンサートやチャリティで幅広く活動している。



ヴァイオリン  
柳澤良音  
(やなぎさわ ひろね)

福島県出身。東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。幼少より研鑽を積み、セシリア国際音楽コンクール第3位など受賞歴多数。クラシックから幅広いジャンルで演奏活動を行っている。



渡邊英徳研究室が取り組む「ヒロシマ・アーカイブ」「ナガサキ・アーカイブ」など、先端テクノロジーを活用した戦災のデジタルアーカイブを、会場ロビーにて大型ディスプレイで展示いたします。



「ヒロシマ・アーカイブ」



「ナガサキ・アーカイブ」